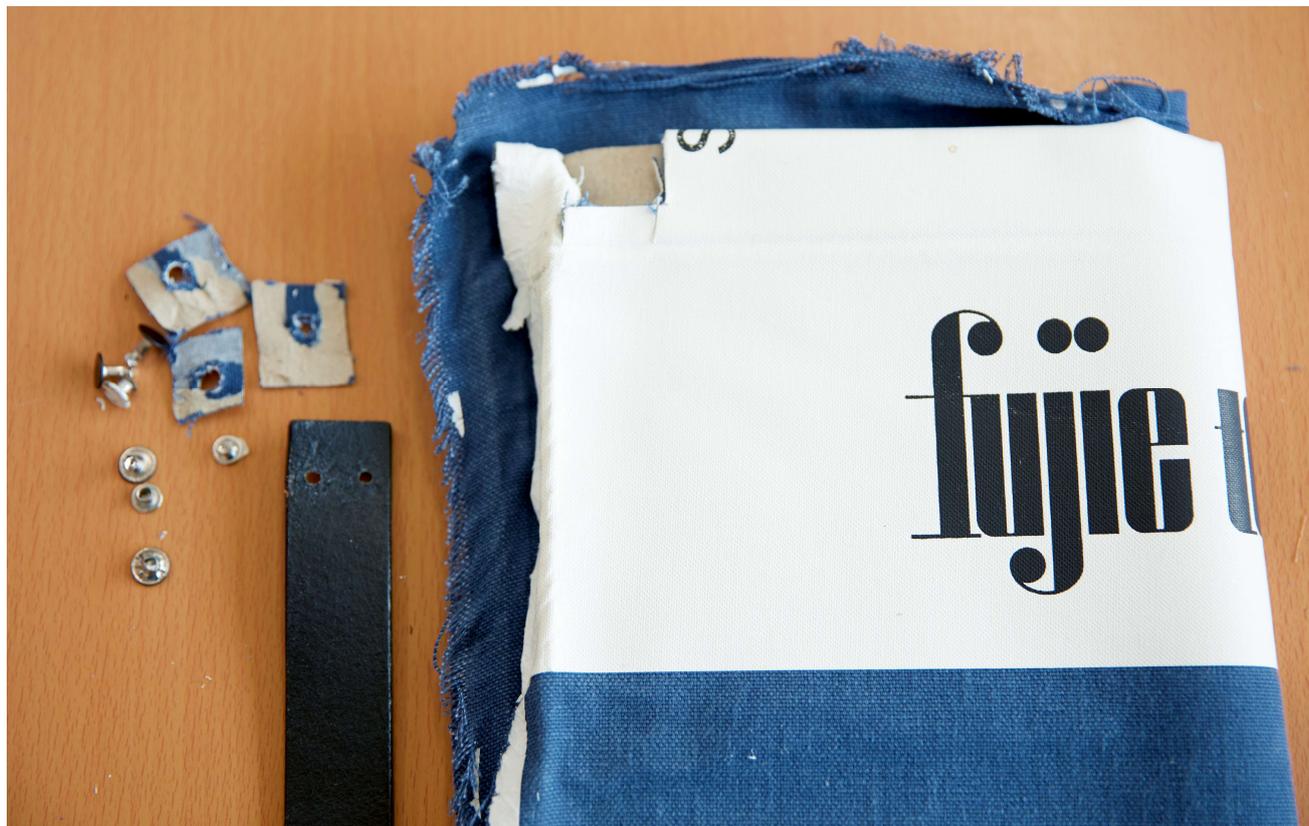


旧見本帳をリサイクル

障がいのある人が通う、就労移行支援事業所でスタート



フジエテキスタイルは、カタログ入れ替えに伴う旧見本帳を“リサイクル資源”とする新しい試みをスタートしました。施主やデザイナーが実物の生地で作るカーテンやクッションを選ぶよう、小さなカット生地が貼られた見本帳は、紙・布・金属・プラスチックで構成されています。インテリアで廃棄される“残布”に着目した「ZAMPU PROJECT」の尾田春菜さんの協力により、障がいのある方が通う就労移行支援事業所で分別作業を行います。

「ZAMPU PROJECT」とは、オーダーカーテンや特注家具などのインテリアアイテムの製作過程で生まれた「残布（ざんぷ）＝ZAMPU」をアップサイクルするプロジェクト。「インテリアの残布でアップサイクル！ サステナブルな社会へ」をテーマに、残布を使って、障がいのある方が働く就労支援施設や高齢者施設など、福祉施設への仕事の創出を目指しています。想いを込めて製作したはずの見本帳が、数年単位の商品カタログ入れ替えで焼却廃棄されることに疑問を抱いたフジエテキスタイルは、2022年に「ZAMPU PROJECT」の尾田春菜さんと活動をスタート。尾田さんは、今回の旧見本帳分別の作業を行う就労移行支援事業所「富士ソフト企画株式会社」と「就労サポートセンターなくすと」へ出向き、障がいのある方にとって難点の少ない解体・分別の方法を検証しました。

就労移行支援事業所、「ZAMPU PROJECT」、フジエテキスタイルの3者にとって、見本帳のリサイクルは新たな挑戦となりました。初回でリサイクルされる見本帳冊数は自社廃棄のおよそ1/10となり、今後はより多くの人の共感によってこの活動を続け、全量を“リサイクル資源”とすることを目指します。

手作業で行われるサンプルのリサイクル

解体・分別はすべて手作業で行われます。1冊あたり約500枚の生地サンプルを台紙から剥がし、金具や表装の部材と分けて、資源ごとに箱や袋に詰めます。各施設では、利用者それぞれが工夫を重ねられるように、複数回に渡って作業予定が組み、グループで作業工程を役割分担することで生地を剥がす人と紙を整える人のコミュニケーションも生まれました。丁寧に分類された資源はリサイクルセンターに回収されます。



就労移行支援事業所と継続的に関わる

作業を就労移行支援事業所に依頼することによって、取り組みに多様な人が関わり、施設にとっても仕事の幅の広がりを利用者の方への刺激が生まれました。初回を終えて、1度きりの関わりではなく継続的に無理のない仕事量をお願いすることが、就労移行支援事業所、「ZAMPU PROJECT」、フジエテキスタイル、それぞれに意味のある活動だと考えています。フジエテキスタイルは、今後見本帳を“使う人”にも共感が広がりこの活動を続けることを目指しています。



ZAMPU
PROJECT

「インテリアの残布でアップサイクル！ サステナブルな社会へ」をテーマに、障がいを持った方が働く就労支援施設や、高齢者施設などへの仕事の創出を目指し、インテリアテキスタイルを社会福祉へと繋ぐ取り組みを行っています。

fujie textile

フジエテキスタイルは日本のデザインテキスタイルメーカーです。1885年に創業、1960年代よりテキスタイルのデザインカンパニーとしてクリエイションを開始しました。「日本の美意識＝シンプル」と「現代の美＝モダン」を大切にものづくりを続けています。

CONTACT

株式会社フジエテキスタイル PR担当：舟田
03-3378-8868/ fujie-news@fujie-textile.co.jp
Instagram : [@fujietextile_official](https://www.instagram.com/fujietextile_official)